

事業協働機関による情報発信事業（シンポジウムの開催）

第一次産業の六次産業化支援のためのシンポジウムの開催

プロジェクトメンバー

熊本県立大学 地域活力創生センター センター長・松添直隆

連携機関 熊本大、熊本学園大、崇城大、東海大、尚絅大、九州看護福祉大、熊本高専 等

プロジェクトの概要・目的

11月16日熊本県立大学 CPD センターで、西九州化学工学懇話会主催、熊本県立大学共催のシンポジウム「九州産杉の高付加価値化による復興と地方創生」をCOC+事業の一環として開催した。学生5名を含む約40名が参加した。

12月9日メルパーク熊本で、産学官連携推進部会六次産業化育成連絡会主催のシンポジウム「第1次産業の競争力強化と6次産業化による地方創生」を開催した。学生約50名を含む約150名が参加した。



11月16日開催のシンポジウム「九州産杉の高付加価値化による復興と地方創生」を開催した。学生約50名を含む約150名が参加した。

活動内容と成果・効果

11月16日に開催されたシンポジウムでは「九州産杉の新たな機能性を探る」を共通テーマに、4人の講師による講演の後、大分県日田市、宮崎県日南市、熊本県南小国町の関係者も加わって、「各自治体の取組とこれから」をテーマにパネルディスカッションと意見交換が行われた。それらの中で、カーボン・ナノファイバーに取って代わる可能性のあるものとして近年注目されているセルローズ・ナノファイバーの優れた特性が指摘され、その原材料となる九州産杉の高付加価値化を伴った新たな市場開拓の可能性について指摘があった。雇用促進を実現する案件として、今後の展開が期待される。

12月9日のシンポジウムでは「地方創生と地域発イノベーションーアグリビジネス創出における地方大学の役割ー」をテーマに基調講演が行われた後、COC+事業における産学官連携の取組と農産物輸出促進に関する事例報告、及び「第1次産業の競争力強化と6次産業化ープラットフォームづくりー」をテーマにパネルディスカッションがあった。

熊本県、農協、食品産業における6次産業化の取り組みが紹介され、地域の特産品の高付加価値化とそれによる所得増加・雇用促進のために、産官学金によるプラットフォームづくりの必要性が確認された。

これらを通じて、熊本県における第1次産業の競争力強化と6次産業化による雇用創出にとって必要な体制のあり方や事業を進める上での留意点等を改めて確認することができた。



12月9日開催のシンポジウム「第1次産業の競争力強化と6次産業化による地方創生」